

## 1. 調査概要

## (1) 子ども・子育て支援に関する調査

## ●調査対象

就学前児童の保護者／小学生の保護者

## ●調査時期

令和6年3月1日～3月19日

## ●調査方法

学校及び園を通じて配付、学校及び園を通じての回収と郵送回収の併用

## ●配付・回収状況

	配付数	回収数	回収率
就学前児童の保護者	1,000 票	630 票	63.0%
小学生の保護者	1,000 票	680 票	68.0%

## (2) 子どもの生活アンケート（子どもの貧困に関する調査）

## ●調査対象

小学5年生の保護者と児童／中学2年生の保護者と生徒

## ●調査時期

令和6年3月1日～3月19日

## ●調査方法

保護者：学校を通じて配付・回収　児童・生徒：学校で配付、記入、回収

## ●配付・回収状況

	配付数	回収数	回収率
小5保護者	429 票	349 票	81.4%
中2保護者	423 票	335 票	79.2%
小5児童	429 票	412 票	96.0%
中2生徒	423 票	373 票	88.2%

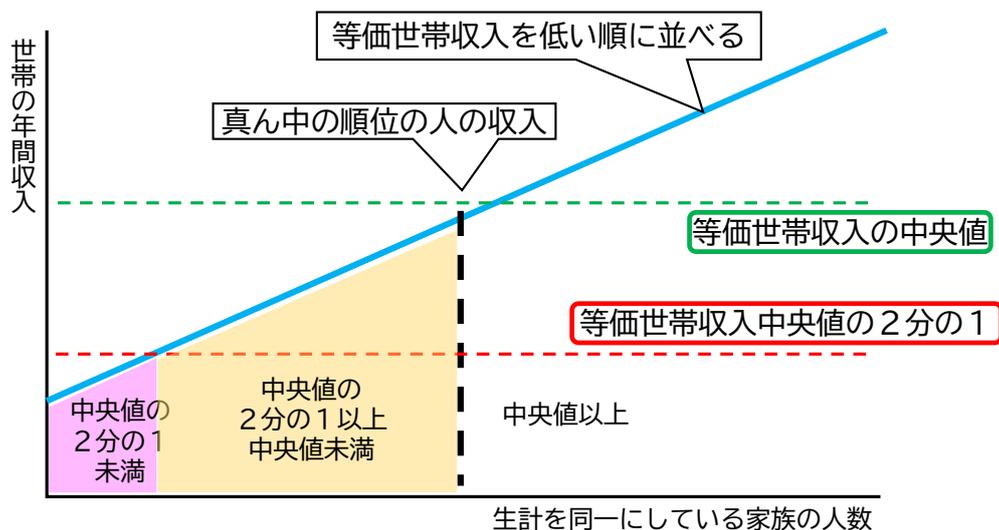
## 2. 子どもの生活アンケートにおける経済的な状況の分類

子どもの生活アンケートの保護者票では、「世帯全体のおおよその年間収入（税込）」の設問（問19）と、「生計を同一にしている家族の人数」の設問（問2）を設けています。

上記2つの回答から、今後、「経済的な状況別」として以下のような処理を行い、「等価世帯収入」による分類による分析を行っていきます。

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする）。
- 上記の値を、同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、「中央値以上」、「中央値の2分の1以上中央値未満」、「中央値の2分の1未満」で分類する。

等価世帯収入 = 世帯の収入を、同居家族の人数の平方根で除す



### 3. 子どもの生活アンケートにおける経済的な状況の分類結果

前述の経済的な状況の分類を行った結果の状況別の割合は以下のとおりです。

上段：n(回答数) 下段：%		合計	経済的な状況			
			中央値の2分の1未満	中央値の2分の1以上 中央値未満	中央値以上	無回答
全体		684 100.0	62 9.1	236 34.5	344 50.3	42 6.1
学年	小学校5年生保護者	349 100.0	31 8.9	123 35.2	173 49.6	22 6.3
	中学校2年生保護者	335 100.0	31 9.3	113 33.7	171 51.0	20 6.0

#### 経済的な状況×世帯の状況

【小学校5年生保護者】		合計	経済的な状況			
上段：n(回答数) 下段：%			中央値の2分の1未満	中央値の2分の1以上 中央値未満	中央値以上	無回答
全体		349 100.0	31 8.9	123 35.2	173 49.6	22 6.3
世帯の状況	ふたり親世帯	301 100.0	12 4.0	107 35.5	169 56.1	13 4.3
	ひとり親世帯	40 100.0	19 47.5	16 40.0	3 7.5	2 5.0
	その他世帯	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

【中学校2年生保護者】		合計	経済的な状況			
上段：n(回答数) 下段：%			中央値の2分の1未満	中央値の2分の1以上 中央値未満	中央値以上	無回答
全体		335 100.0	31 9.3	113 33.7	171 51.0	20 6.0
世帯の状況	ふたり親世帯	282 100.0	15 5.3	100 35.5	162 57.4	5 1.8
	ひとり親世帯	40 100.0	14 35.0	13 32.5	9 22.5	4 10.0
	その他世帯	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0